

答申施策の実施状況

～東北地方交通審議会答申（平成17年3月）のフォローアップ～



第一編

東北地方における 望ましい交通のあり方



構 成

✚ 取り組むべき施策

- ①地域間・都市間交流を促進する「広域的な公共交通の整備と活用」
(答申「第2章」)
- ② 快適で活力を生み出す「都市交通の整備・改善」
(答申「第3章」)
- ③ 安心して暮らし続けられる地域づくりのための「地域の足」の確保
(答申「第4章」)
- ④ 「環境に優しい」交通体系の整備
(答申「第5章」)

①

地域間・都市間交流を促進する 広域的な公共交通の整備と活用

(答申「第2章」)

東北地方の交通の課題

本格的な人口減少を迎えており、地域の経済活動が縮小し、活力が失われることが懸念される。このような中、**交流人口の拡大**により地域の活力を生み出していくことが重要である。そのため、**広域的な公共交通の整備及び最終目的地までの足を確保**する。



(1) 他の地方ブロックや海外との交流拡大のための 基盤整備の着実な推進等

✚ 答申の要点

- ・ 東北地方と他の地方ブロックとを結ぶ幹線的な交通や二次交通の整備を推進することにより、交流人口の拡大を図る。

✚ 平成18年度の取り組み

- ・ **仙台空港アクセス鉄道の開業と、関連する取組み**(仙台空港アクセス鉄道(株))
平成19年3月18日に開業。開業により、JR仙台駅～仙台空港間の所要時間が**最大23分短縮**される。開業日の利用者数は22,900人。
- ・ **整備新幹線の新青森延伸工事費のうち71.8%が予算化(青森県)**
平成19年度当初予算時点で、総事業費4,595億円のうち3,300億円が予算化。
- ・ **羽越本線の高速化と地域活性化(山形県)**
平成18年11月に山形・新潟両県で、羽越本線(新潟～酒田)高速化の事業の可能性を見極めるため、「羽越本線の高速化と地域活性化に関する検討委員会」を設置し検討を行っている。
- ・ **仙台空港への路線誘致活動と利用促進事業(宮城県)**
○各航空会社との連携・情報収集に努めるとともに、利用促進のためマスメディアを活用したPRを県内外で展開した。
○タイ・香港路線の開設(再開)を目指し、航空会社、政府関係者等に対する路線誘致活動やチャーター便の運航支援(PR等)を実施した。

事例紹介

✦ 平成18年度の取り組み(続)

- **山形～仙台直通列車を利用した旅行商品の造成・販売((株)JTB東北)**

平成19年4月30日、5月4日に仙山線直通の臨時列車が運行されることに合わせ、ハワイ旅行商品の参加者を宮城県、山形県を中心に募る。

- **フェリーを活用した地域振興を考えるシンポジウム**

(東北フェリー活性化委員会)

東北地方整備局と東北運輸局主催で、東北地方で就航されている6つのフェリー航路について、その魅力を考えるシンポジウムを平成19年2月19日に開催した。東北地方の観光資源をもとに、フェリーに対する認知度の向上と、フェリーを活用した東北地方の発展を目的としている。

平成19年3月18日
開 業

仙台空港アクセス鉄道の開業と 関連する取組み

事業の概要

JR東北線名取(なとり)駅と、仙台空港(せんだいくこう)駅とを結ぶ約7.1kmが平成19年3月18日に開業し、JR仙台駅から仙台空港駅まで約17.5kmが開通した。JR東北線との相互直通運転により、仙台駅と仙台空港駅は、最速17分で結ばれた(従来の空港連絡バスは仙台駅から約40分)。新幹線との乗り継ぎにより、福島や一関が、新たに1時間圏となった。

関連する取組み

【共通乗車券への組み込み】「仙台まるごとパス」での乗車も可能。

【山形県による出資】
直通臨時列車の運行を受け、山形県が、仙台空港アクセス線の運営主体である第三セクター「仙台空港鉄道」への出資準備金5,000万円を執行した。これにより、仙山交流の流れが強まるとみられる。

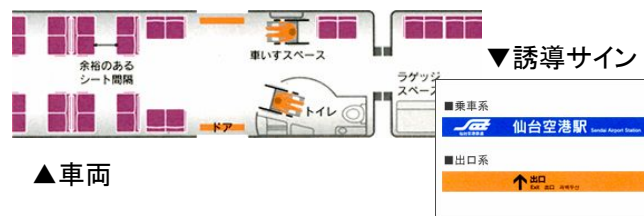
【山形ー仙台空港駅直通の臨時列車】
4月30日と5月4日に運行され、JTBが主催するハワイ旅行商品の行程に組み込まれる。

【機内でのアナウンス】
ANAが3月16～22日まで、JALが3月18～31日まで、仙台空港に到着する全ての機内で、仙台空港アクセス鉄道の利便性についてPRするアナウンスを行った。

【沿線新駅周辺でのまちづくり】

「杜せきのした駅」周辺では、大型SC(2月28日オープン)とエリア東側の低層戸建住宅地区を中心としたまちづくりが行われている。
「美田園(みたぞの)駅」周辺では、国際交流や物産施設を備えた臨空エリアとしてまちづくりが行われている。

《ユニバーサルデザインの導入》



《路線図》



(2) 東北地方内の都市間移動円滑化に向けた検討

✚ 答申の要点

- ・ 鉄道在来線の高速化や、東北地方内の都市間を結ぶ高速バス網の充実により、東北地方内の都市間の交流人口拡大を図る。

✚ 平成18年度の取り組み

- ・ 庄内地域物産館バス停及び駐車場整備事業(山形県)
国のバス利用促進等総合対策事業(平成19年度)を活用し、鶴岡市とバス事業者がバス停等を整備する予定。
(概算総工事費80,000千円、駐車場整備面積2,131.65㎡)。
- ・ 高速バスロケーションシステムの導入(庄内交通、山交バス、宮城交通、羽後交通)
平成18年に、**仙台～山形～鶴岡～酒田～本荘間**において高速バスロケーションシステムが導入された。

事例紹介

庄内地域物産館バス停及び駐車場整備事業

■事業の概要

高速バス・路線バスと自家用車、高速バスと路線バス・タクシー等の乗り継ぎ施設として、バス待合所の整備や現行駐車場の拡大整備を行い、利用者の利便性向上を図る。
平成17年度には、公共交通活性化総合プログラムの一環として「庄内地域高速バス活性化プロジェクト事業」が実施され、国、県、バス事業者、観光関連等の関係者が集まり、高速バスによる観光振興やバス利用者の増加に向けての検討が行われている。平成18年度には高速バスロケーションシステムが導入され、利用者への高速バスの運行情報提供も実施されている。

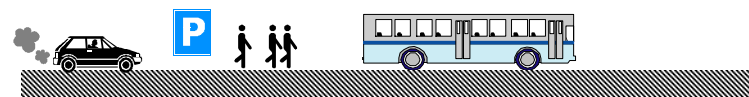
《整備予定箇所》



パーク&バスライドの推進による 高速バス利便性向上

《パーク&バスライド》

① 駐車場に自家用車を止めて



② バスで目的地まで向かう

《予定事業》

- 駐車場の設備整備
(増設、舗装、案内標識等の整備)
- 庄内観光物産館バス停・待合所設備整備
(上屋、窓口、ベンチ、電飾ポール、トイレ等)
- バス運行通路の整備

(3) 広域的な公共交通の拠点と目的地を結ぶ 公共交通の需要に応じた供給形態の見直し

✚ 答申の要点

- 広域的な公共交通の拠点と目的地とを結ぶ公共交通について、来訪者のニーズに適合したルート、ダイヤへの再検討や、より少ない需要に適合した乗合タクシーへの転換などの供給形態の見直しを進めるべきである。

✚ 平成18年度の取り組み

- 「いわて花巻空港エアポートライナー」運行開始(岩手県タクシー協会)
いわて花巻空港において、空港と岩手県内の主要な5エリアとを結ぶ乗合タクシーの運行を開始(「いわて花巻空港エアポートライナー」)。路線や乗降場所の増設等、サービスの充実が図られてきている。
- 空港からの乗合タクシー試験運行(青森県)
青森空港から白神山地方面への乗合タクシーの試験運行を行った《2次交通運行モデル構築調査》。

事例紹介

「いわて花巻空港エアポートライナー」運行開始

■事業の概要

いわて花巻空港から、岩手県内の主要な観光地や市街地へ直行する乗合タクシー。目的地まで直接行くことができ、利便性が高い。また、乗合のため、運賃が通常のタクシーと比較して半額以下となっている。運行開始直後は5路線だったが、平成18年12月に1路線が追加され、現在では6路線の運行となっている。

《現在運行されている6路線》

エアポートライナー路線図
(大人1人片道料金)経由地

花巻南温泉峡

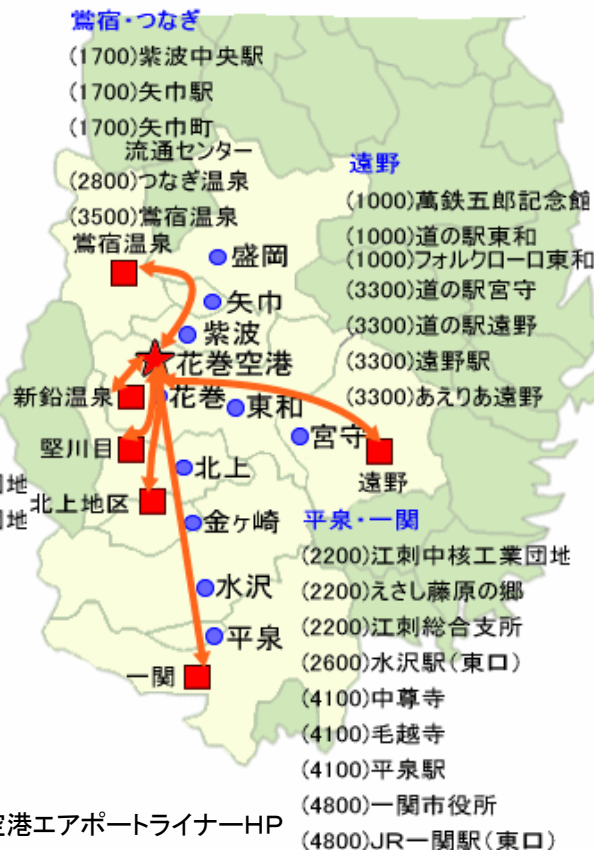
(1200)松倉温泉
(1300)志戸平温泉
(1400)渡り温泉
(1500)大沢温泉
(1700)山の神温泉
(1900)鉛温泉
(1900)新鉛温泉

北上西部

(1700)後藤野工業団地
(2000)堅川目工業団地

北上

(1500)北上地区
(2000)金ヶ崎地区



■サービスの特徴

いわて花巻空港発着全便に対応！

発着に合わせた運行で乗り遅れの心配なし！

事前予約制で安心の座席確保！

9名まで乗れるのでグループ利用も可能！

《運賃の例》



(4) 交流人口拡大に向けた多様な関係者が一体となった取り組みの推進

✚ 答申の要点

- 複数の交通機関が組み合わされる場合における、交通機関の乗り継ぎの円滑化を図る。
- 公共交通と目的地の魅力を一体的にした情報発信や商品化する。そのために、多様な関係者が一体となった取組みを推進する。

✚ 平成18年度の取り組み

- 仙台空港アクセス鉄道における“Suica”相互利用開始
(JR東日本仙台支社)
仙台空港アクセス鉄道は、**Suicaとの相互利用**が可能。PASMOとの相互利用は平成19年度中を予定している。
- レンタカー利用実態調査(青森県)
レンタカー利用者に対して、**訪問観光地や利用形態等のアンケート**を行い、レンタカー利用者に対する情報発信を行っていく《～平成19年度 レンタカー利用実態調査事業》。
- 仙台・宮城デスティネーションキャンペーンにおける広域観光PR(阿武隈急行(株))
平成20年度に開催が予定されている仙台・宮城デスティネーションキャンペーン「**美味し国、伊達な旅**」において、コンテンツを充実させた広域観光PRを行う。
- 三陸縦断観光ルート整備事業(岩手県)
三陸沿岸地域の観光資源を掘り起こし、**交通事業者や農林水産業者、観光事業者などとの連携**により、三陸沿岸地域の多様な観光資源の組み合わせによる新たな旅行商品の造成や観光ルートの形成等を行う《三陸縦断観光ルート整備事業》。

事例紹介

✦ 平成18年度の取り組み(続)

- **日台マーケティングセミナー<台北>((社)日本観光協会)**

仙台空港アクセス鉄道はもとより東北各地の駅・空港からの観光地アクセスを含む旅行行程の提案や東北の観光情報の発信による**商品造成の促進と現地ニーズの情報交換**。

- **高等学校と連携した地域密着体験型旅行商品の企画・販売・実施
((株)JTB東北)**

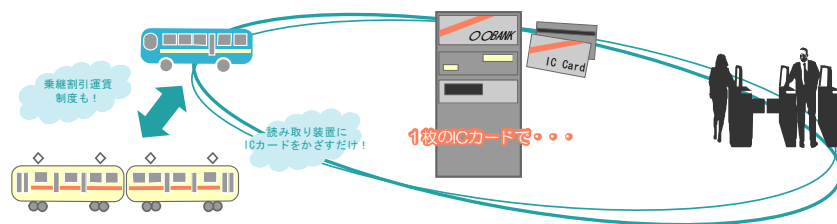
宮城大学等との連携を図っており、今後、増加予定の大学の**観光関連学科等との連携**も視野にある。さらに、自治体、NPO等地域組織との連携を進める方向である。

仙台空港アクセス鉄道における “Suica”相互利用開始

■事業の概要

平成19年3月18日のダイヤ改正と同時に、首都圏IC相互利用サービスが実施され、JR東日本が発行する“Suica”と“PASMO”を発行する事業者間でのICカードによる相互利用が可能となる。仙台圏では、同日に開業する仙台空港アクセス鉄道で“Suica”相互利用が可能となる。

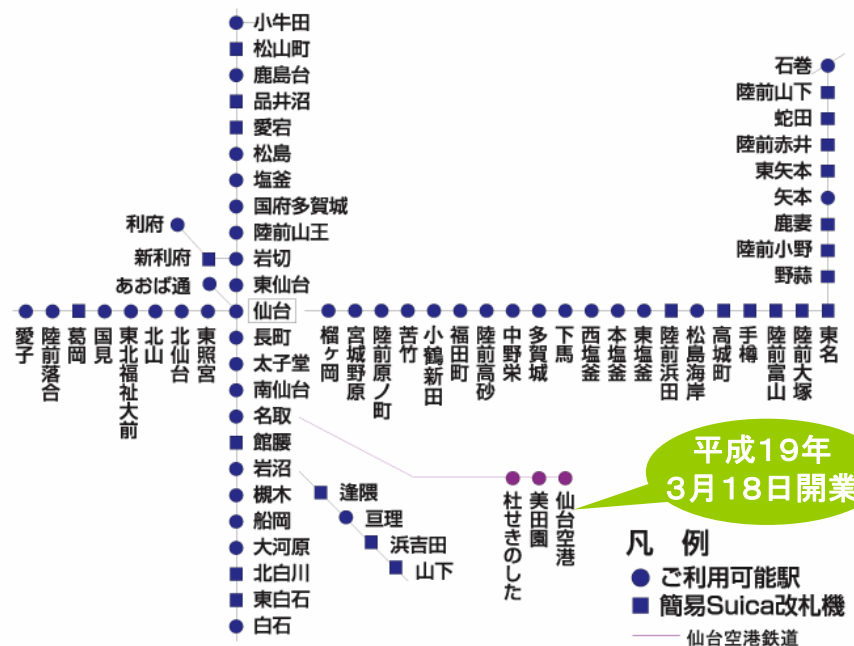
■ICカードのメリット



- パスケースからのカードの出し入れが不要であり、迅速かつ楽な乗降が可能
- ポイント制など利用実績に応じた多様な割引や乗り継ぎ割引が可能
- バスの乗降時間の短縮により、交通渋滞の緩和や環境改善に資する
- 1枚のカードで各種交通機関を利用可能であり、商業施設との連携も可能

利用者にとって利便性の高い
シームレスなサービスの提供

■仙台圏で“Suica”を使用できる路線



※他の鉄道会社はご利用になれません。

※□囲みの駅では、一部の改札口でSuicaがご利用になれません。

資料) 東日本旅客鉄道HP

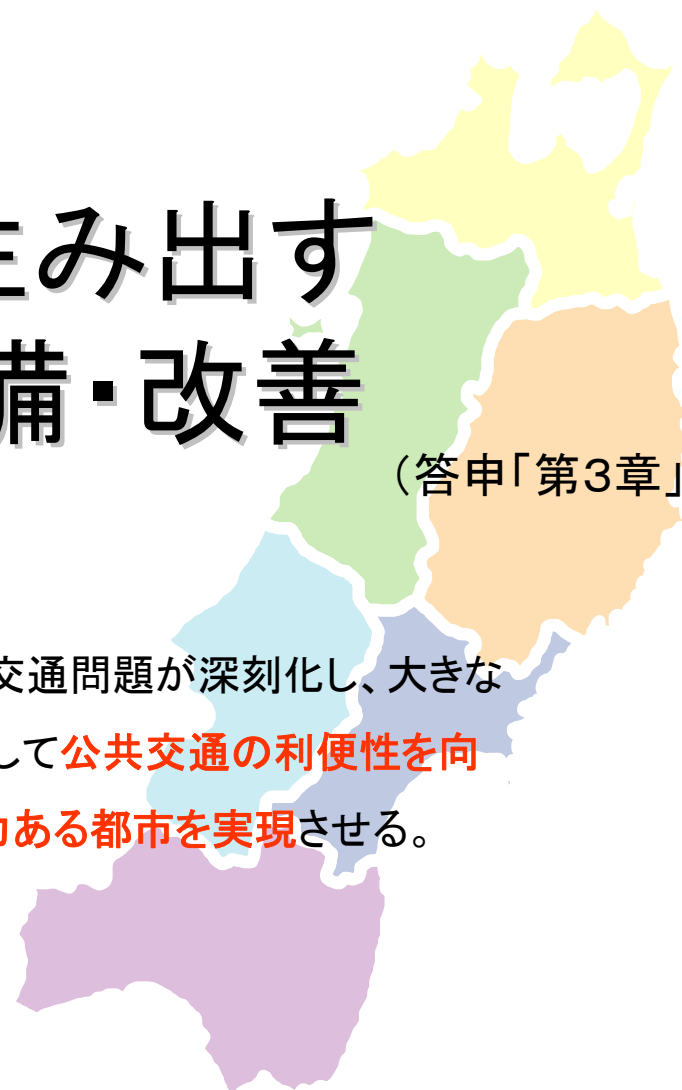
②

快適で活力を生み出す 都市交通の整備・改善

(答申「第3章」)

東北地方の交通の課題

都市部においては、道路交通渋滞などの都市交通問題が深刻化し、大きな社会的ロスが生じている。マイカー利用を抑制して公共交通の利便性を向上させ、都市内の移動を円滑化して快適で活力ある都市を実現させる。



(1) 都市鉄道の機能強化

⊕ 答申の要点

- 仙台市地下鉄東西線の整備と沿線まちづくりを着実に推進するとともに、駅前へのバスの乗り入れやパークアンドライドの推進等により、既存の鉄道の利便性向上を図る。

⊕ 平成18年度の取り組み

- **仙台市地下鉄東西線の着工(仙台市)**
平成19年2月5日に、仙台市の「六丁の目」工区で本体工事が着工された(総事業費2,735億円)。「アクセス30分構想」の実現に向けた骨格交通で、動物公園駅(太白区)－荒井駅(若林区)間を28分で結ぶ。
- **新駅開業(JR東日本仙台支社)**
 - ◆JR東北本線太子堂駅(平成19年3月18日より)
「仙台市あすと長町土地区画整理事業」の一環で、駅への結節強化と新駅周辺に居住される方の利便性向上が図られる。
 - ◆JR仙山線東北福祉大前駅(同上)
東北福祉大学からの請願及び地元町内会等からの要望を受けて設置する駅。バスや自家用車の乗降場整備により、駅への結節が図られる。
- **駅との結節を強化するバス路線の検討(仙台市)**
仙台市内の既存駅において、バス利用者の増加につながるバス結節について検討中。

事例紹介

平成19年2月5日
本体事業着工

仙台市地下鉄東西線の着工



資料) 仙台市記者発表資料

事業の概要

仙台市内の「動物公園駅」と「荒井駅」を結ぶ、約13.9kmの仙台市地下鉄東西線の本体事業が、平成19年2月5日に着工した。

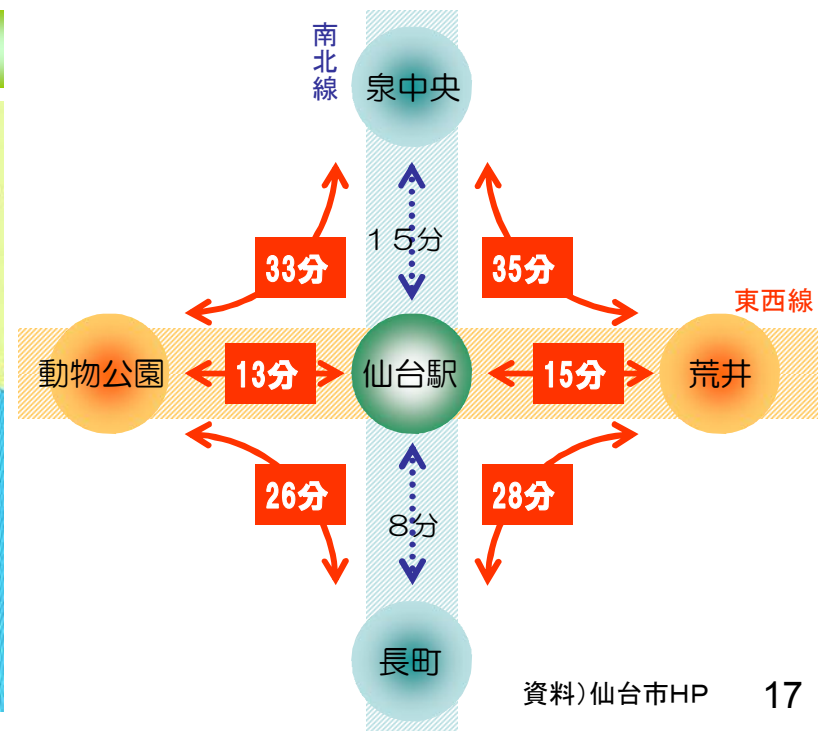
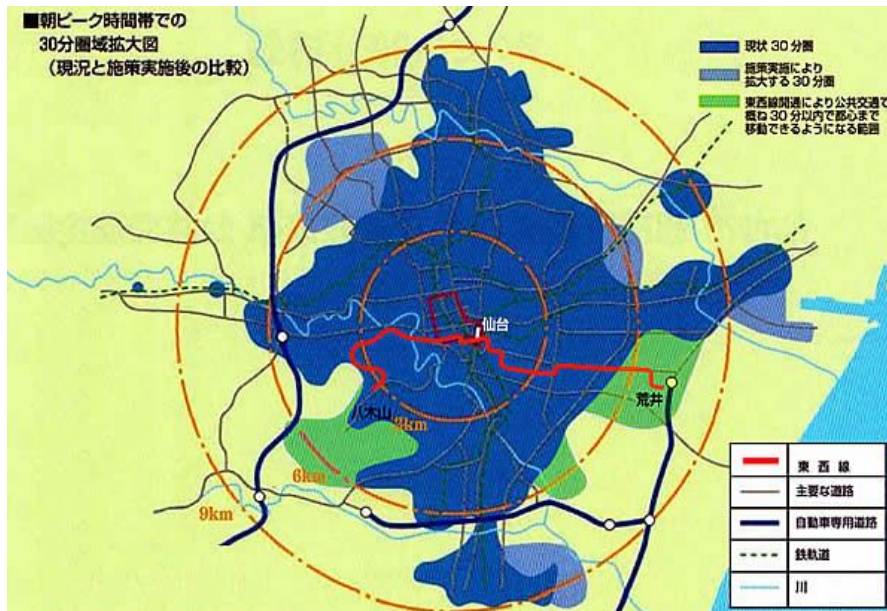
建設区間	動物公園駅～荒井駅
営業キロ	約13.9km
総建設費	2,735億円
機種	リニアモーター地下鉄
開業予定	平成27年度

路線図



開業の効果

アクセス30分構想の実現へ向けて



資料) 仙台市HP 17

(2) バス利用環境の改善

✚ 答申の要点

- 定時性確保や速達性の向上、利用者にとってわかりやすい路線網への改善等により、バスの利便性向上を図る。

✚ 平成18年度の取り組み

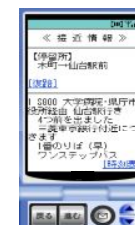
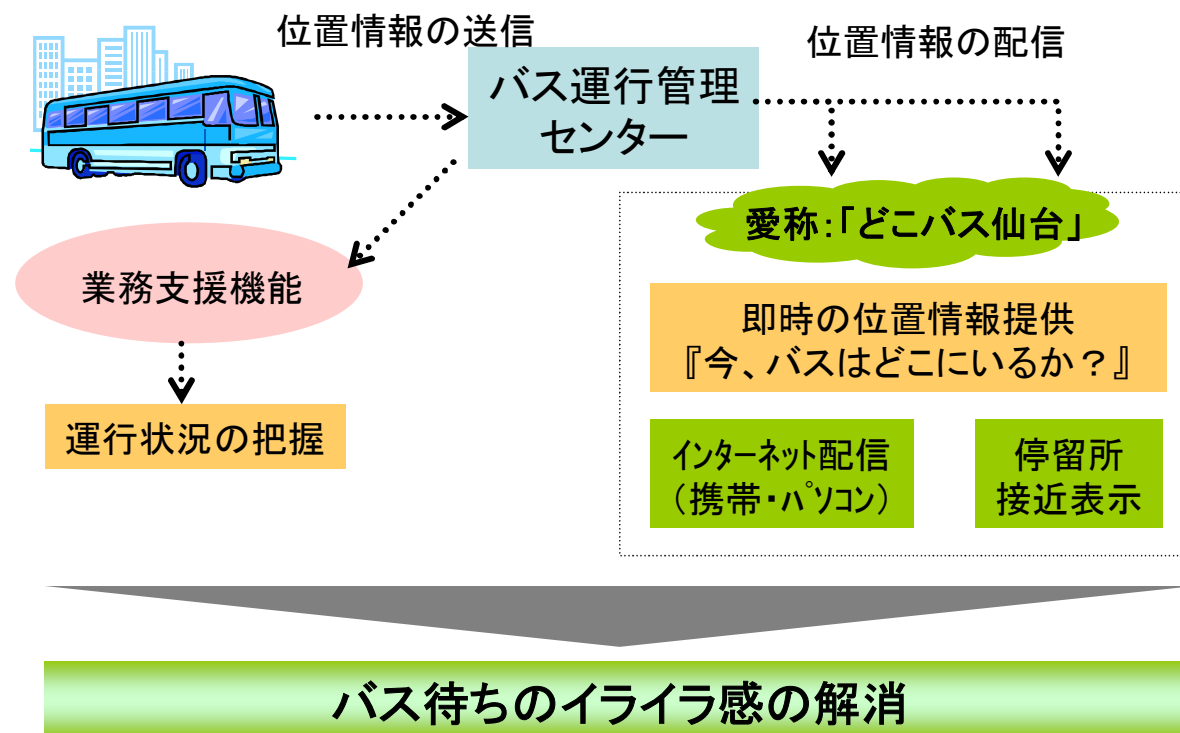
- **バスロケーションシステムの運用開始(仙台市交通局・宮城交通(株))**
平成18年4月1日から、バスロケーションシステムの運用を開始した。利用者からの**意見・要望を分析**し、システム改良について検討している。
- **バスロケーションシステムの導入検討(八戸市交通部)**
平成20年度の導入を予定している。平成18年度は、市民及び有識者等から組織された検討委員会により、事業の方向性を定め、導入することを決定した。
- **2事業者の共通化によるバス路線の見直し(南部バス(株))**
「八戸市公共交通再生プラン」を策定し、2事業者を共通化することによる八戸駅～八戸市中心部を結ぶ路線の見直し等が検討された。平成19年3月にとりまとめ予定。
- **仙台市オムニバスタウン(仙台市)**
平成13年度～17年度にかけてバス走行環境改善や円滑化、利便性向上のための施策を実施。現在は施策実施の効果を検証中。

事例紹介

平成18年4月1日
運用開始

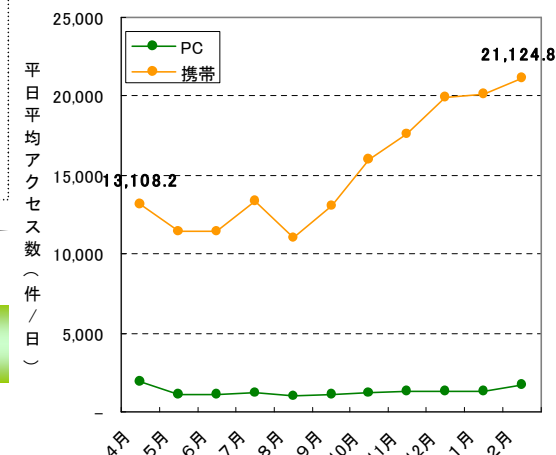
バスロケーションシステムの 運用開始(仙台市)

■ 仕組み



■ アクセス数の推移

「どこバス」検索数(市交通局+宮城交通)



■ 利用者へのアンケート実施

平成19年3月には、「どこバス仙台」の利便性向上を図るため、利用者に対するアンケートが実施されている。
(現在結果の集計中)

＜主な設問項目＞

- ・バスの利用状況
- ・「どこバス仙台」の利用状況
(認知度、頻度、利用項目等)

- ・「どこバス仙台」の利用効果
- ・「どこバス仙台」に求める改善策
- ・「どこバス仙台」導入によるバス
利用状況の変化

- ・バス接近表示導入に
よる効果

等

(3) 都市交通改善のためのタクシーの活用

✚ 答申の要点

- バスの運行が困難な深夜等の需要の少ない時間帯における乗合タクシーの導入や、高齢化社会へ向けた福祉輸送分野におけるタクシーの活用等、タクシーによる多様なサービスを提供することにより、都市交通の改善を図る。

✚ 平成18年度の取り組み

- **タクシーショットガン試行実験**
(仙台市中心部タクシー交通問題対策協議会)
平成19年3月13日～17日の5日間(22:30～2:00)に、勾当台公園市民広場地下駐車場等の待機場から、定禅寺通りと広瀬通りに設けた臨時の乗り場に順次、タクシーを送り出す実験を実施した。

事例紹介

平成19年3月13日
実験開始

タクシーショットガン 試行実験(仙台市)

■ショットガン方式とは？

駅周辺における客待ちタクシーの待機列を解消するため、乗り場から離れた大規模タクシープールを活用し、乗り場への流入を調整する施策

客待ちタクシーの違法駐車解消

■規制エリア

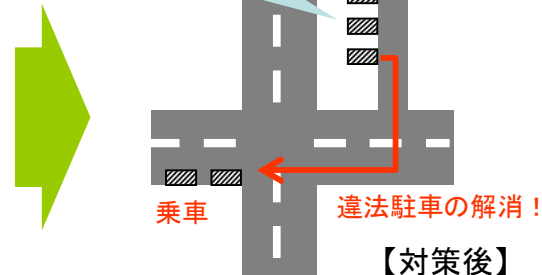
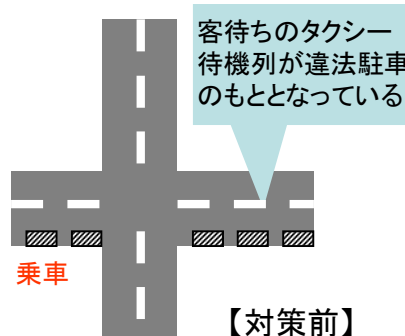


■実験概要

実施主体 仙台市中心部タクシー交通問題対策協議会
期間 平成19年3月13日～17日(5日間)
場所 仙台市青葉区国分町周辺
協力車両 市内の法人タクシー61社(2,954台)、個人タクシー745台
実験内容 勾当台公園地下駐車場等の待機場から、定禅寺通と広瀬通に設けた臨時乗り場に順次タクシーを送り出す。



タクシープールで車両を待機させ、乗車場所の車列が短くなったら車両を投入する



(4) 交通結節点の改善による乗継ぎ利便性の向上とまちの賑わいの創出

✚ 答申の要点

- 交通事業者が一体となって交通結節点の乗り継ぎ利便性を向上するとともに、公共施設や商業施設等を誘致することにより、まちの賑わいの創出を図る。

✚ 平成18年度の取り組み

- 仙台空港アクセス鉄道開業に伴う仙台駅乗換の円滑化（仙台市ほか）
「**仙台空港アクセス鉄道開業に伴う広域交流促進プロジェクト**」検討委員会において、仙台駅で円滑に乗換をおこなうための施策を検討した。

事例紹介

仙台空港アクセス鉄道開業に伴う 仙台駅乗換の円滑化

事業の概要

平成19年3月18日の仙台空港アクセス鉄道開業に合わせて、仙台駅での乗換をわかりやすくするための取組みを行っている。「仙台空港アクセス鉄道開業に伴う広域交流促進プロジェクト」検討委員会を設立し、乗り継ぎ案内パンフレットの作成や、仙台駅における案内情報のあり方等について検討した。

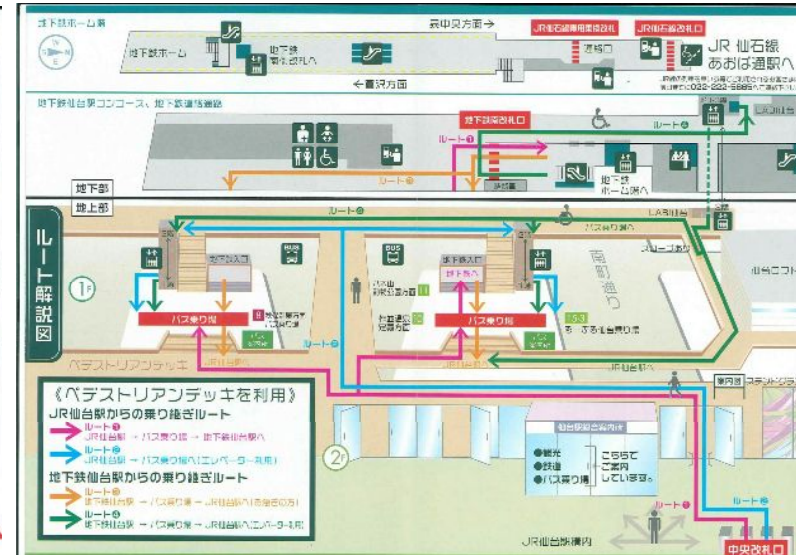
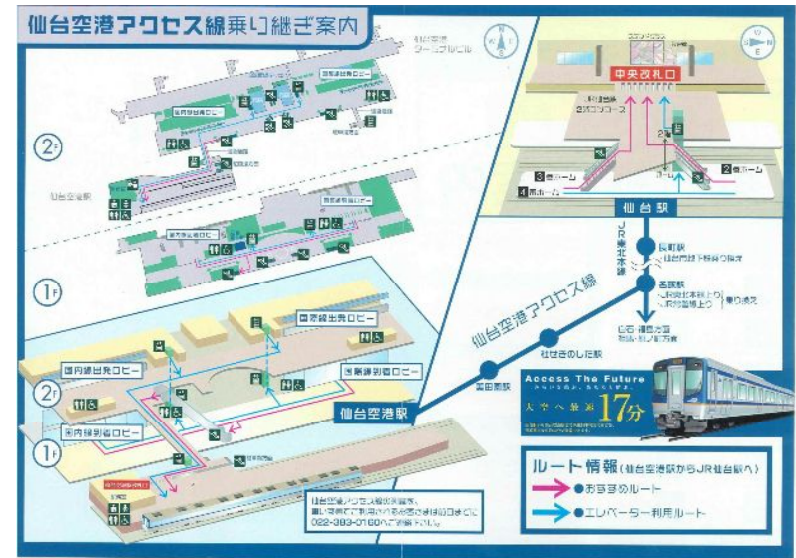


《新たに発行された乗り継ぎ案内》



仙台駅及び周辺全体図

ルート解説は右ページへ



(5) 新サービス導入による公共交通の活性化

✚ 答申の要点

- 100円バスや鉄道・バスフリー乗車券等、新たな運賃体系の導入により、公共交通の利用促進を図る。
- 携帯電話やパソコン、ICカード等の情報通信技術を活用した施策の導入により、利便性向上や乗り継ぎの円滑化を図る。

✚ 平成18年度の取り組み

- **鉄道とバスの乗り継ぎ乗車券発行**
(IGRいわて銀河鉄道(株)、岩手県交通(株)、岩手県北自動車(株))
IGRいわて銀河鉄道において、巣子駅～盛岡間の鉄道と盛岡市内のバスを乗車できる**共通乗車券「すごe-カード」**を、平成19年4月1日から発売する。平成20年3月31日までは**試験的な販売**とし、利用状況をみて対象路線の増設も検討する予定。
- **総合交通情報システム構築検討事業(青森県)**
「交通あおもり.COM」構築ワーキンググループにおいて、公共交通情報や道路情報、ならびに気象情報等の情報を総合的に提供するシステム「交通あおもり.COM」のあり方を検討した。システムは、ポスターやチラシ等に印刷されたQRコードを介して携帯電話から情報検索を行ったり、大型ディスプレイでの情報提供が計画されている。
- **片道通学定期乗車券の発売(津軽鉄道(株))**
回数券へ移行した通学生の定期券利用を促進するため、平成18年10月より、片道通学定期乗車券の発売を開始した。**「パートナーシップテーブル」**により提案された事業。
- **携帯電話での時刻表検索/バス到着予測システム導入(南部バス(株))**
八戸市内循環コミュニティバス「るるっぷ八戸」の時刻表(平成18年10月より)と、走行状況を**携帯電話から検索**できるシステム(平成18年12月より)を導入。

平成19年4月1日
実験開始

鉄道とバスの乗り継ぎ乗車券発行

(IGRいわて銀河鉄道、岩手県交通、岩手県北自動車)

(片道)

IGRいわて銀河鉄道 360円
(巣子駅～盛岡駅)

+

(片道)

県北バス 100～140円
岩手県交通
市内循環バス「でんでんむし」

1日乗り放題で

800円

■実施のメリット

早い！ 巣子駅→盛岡駅は最速
12分！ クルマよりも早く都心へ

安心！ 交通事故を起こすリスクが
減少！ 安心して目的地へ

ラク！ 乗車券を購入する手間や小
銭を用意する手間が省ける！

安い！ ガソリン代と駐車料金を考
えるとマイカーよりもお得！

往復
1,000
～920円の
ところ

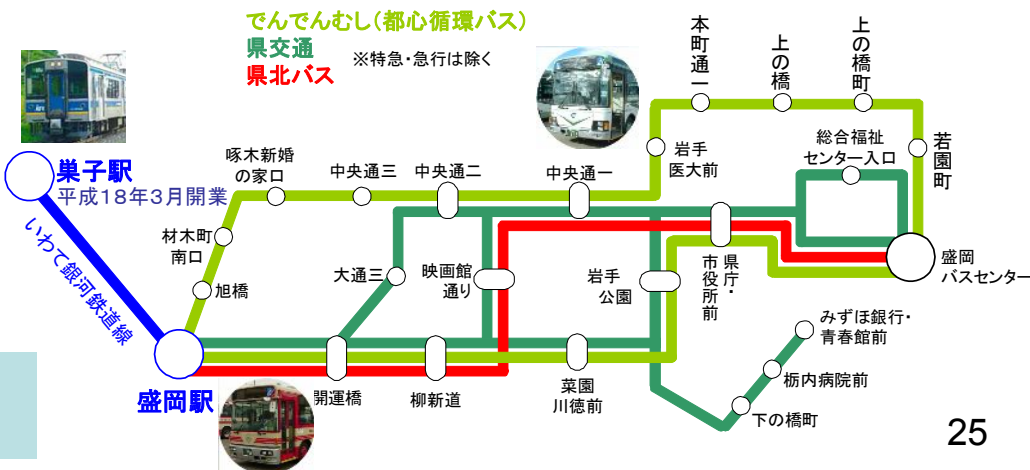
■きっぷ券面



※こどもは半額400円

平成19年4月1日～平成20年3月31日までの
1年間の実証実験(利用当日のみ販売)

■対象エリア(エリア内は乗り降り自由)



(6) バリアフリー化の推進

✚ 答申の要点

- エレベータ等の設置やICカード乗車券の導入等のハード面のバリアフリー化に加え、「心のバリアフリー」のための施策を一層強化し、高齢層の利便性向上や公共交通の利用促進を図る。

✚ 平成18年度の取り組み

- バリアフリー船の就航((株)シーパル女川汽船)

平成18年7月より、女川～江島航路間に、バリアフリーに対応した新船が就航された。新船「しまなぎ」は、**トイレや客席がバリアフリー対応**となっており、女川～江島間を約20分で結ぶ。



資料) 三陸河北新報社

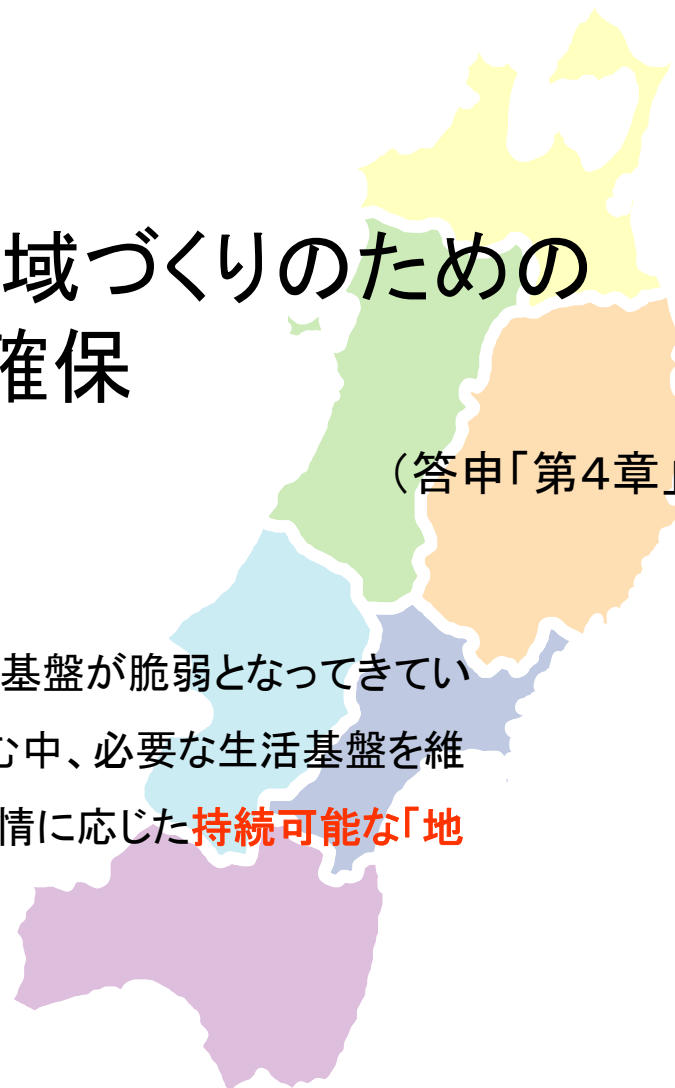
③

安心して暮らし続けられる地域づくりのための 「地域の足」の確保

(答申「第4章」)

東北地方の交通の課題

地方部において、公共交通をはじめとする生活基盤が脆弱となってきた。今後、急速に人口減少や少子高齢化が進む中、必要な生活基盤を維持することが必要であり、自動車から地域の実情に応じた**持続可能な「地域の足」への転換**を図る必要がある。



(1) 地域一体となった公共交通のあり方の検討

✚ 答申の要点

- 路線バス等の廃止が進む中、地域の実情にあった公共交通の見直しを、地域住民の参画のもとに行っていくことが必要。

✚ 平成18年度の取り組み

- **パートナーシップによる地域づくり推進事業(青森県)**
様々なテーマから、民営鉄道の活性化を選定し、行政、事業者、沿線関係者がテーブルを囲んで、意見交換をし、課題や取り組み内容を整理した。
十和田観光電鉄の**沿線高校でワークショップやマーケティング**等に取り組んだ結果、**利用者が前年比増**となった。
- **地域交通ネットワーク会議(秋田県)**
ビジョンの策定へ向けて、県民、事業者、市町村等関係者が連携し、今後の地域交通のあり方等を検討した。

事例紹介

パートナーシップによる地域づくり推進事業

(青森県、十和田観光電鉄)

パートナーシップによる地域づくり推進パイロット事業

県機関または民間団体から、お互いを相手方とするパートナーシップによる地域づくり提案を受け、地域の課題解決に向けた関係者の協議による解決方を検討し、そのための事業を実施するもの。

※「パートナーシップによる地域づくり推進パイロット事業実施要項」より

■平成18年度の推進パイロット事業一覧

提案内容	提案者
十和田観光電鉄の利用促進及び安全運行対策	十和田市
津軽地域住民の足及び青森県の観光資源としての津軽鉄道の存続に向けた方策	津軽鉄道(株)
「飼い主のいない猫」との共生を目指すまちづくり	NPO法人
自閉症特化型支援システムの構築	NPO法人



写真) ワークショップで意見を出し合う高校生

資料) デーリー東北新聞社

■十和田観光電鉄における取組み

解決したい課題

- ① 利用客の減少に歯止めがかからない
- ② 利用客が全盛期の3分の1に減少しており、鉄道事業の赤字が続いている
- ③ 施設の老朽化により、国から緊急改善を求められている

自らが行う取組

- ① 十和田観光電鉄に係る高校生を対象としたアンケート調査、ワークショップの実施(活性化協議会が実施)
- ② 古牧温泉や十和田湖周辺宿泊施設との連携、沿線自治体・JR東日本への宣伝に関する協力要請
- ③ 経営合理化の実施やイベント列車の運行など
- ④ 鉄道とバスとの連結の見直し

県に実施してほしい取組

- ① 十和田観光電鉄の沿線高等学校の生徒を対象としたアンケート調査及びワークショップへの協力
 - ② PTAに対する利用のよびかけの場の提供
- <補足> 「自らが行う具体的な取組」の状況を踏まえて、安全運行対策に対する支援を検討する。

平成18年10月14日「鉄道の日」にマイレール意識を醸成するためのワークショップが開催された。十和田市と三沢市の4校から14名が参加し、活発な意見を出し合った。現在、利用者数が前年比増となっている。

(2) 地方鉄道・地方バス・離島生活航路の改善

✚ 答申の要点

- 極めて厳しい状況に置かれている地方鉄道や地方バス、離島生活航路の改善策を、NPOや地域住民等も含めて地域一体となって取り組むことが必要。

✚ 平成18年度の取り組み

- **NPO法人への駅業務委託実施(IGRいわて銀河鉄道(株))**
平成19年2月1日から、IGRいわて銀河鉄道の**一戸駅**の業務を**NPO法人へ委託**する。**経費節減**を狙った取組で、NPOは駅を地域活性化にも活かしていく方針。
- **由利高原鉄道再生計画(由利高原鉄道(株))**
平成19年初頭に、由利高原鉄道再生計画がまとめられた。平成19年度から5年間に渡って**地域一体となった利便性向上策を設定**するもので、4項目の経営方針のもと、イベント列車の増発や片道定期の販売、パークアンドライド用駐車場の整備等様々な施策が盛り込まれている。
- **鉄道再生支援化事業/経営健全化5ヶ年計画(阿武隈急行(株))**
平成17年度に策定した「経営健全化5ヶ年計画」の着実な推進を図っており、現在、利用者数の減少は止まっている。

事例紹介

平成19年2月1日
開始

NPO法人への駅業務委託実施 (IGRいわて銀河鉄道)

■事業の概要

IGRいわて銀河鉄道(株)が、平成19年2月より一戸町一戸駅の運營業務全般を、二戸市のNPO法人「カシオペア連邦地域づくりサポーターズ」に委託した。
委託する業務は、乗車券類の発売や改札、構内清掃等で、NPO法人の会員は平成18年12月よりIGRによる研修を受け、平成19年2月1日より業務を開始した。
2002年の開業以降、乗降客数が伸び悩むIGRが策定作業を進めている中期経営戦略プランでの取組みの一つ。

地元のマイレール意識の醸成

一戸駅周辺の活性化

■委託後の一戸駅の様子

NPO法人「カシオペア連邦地域づくりサポーターズ」代表理事のあいさつ。



今まで以上に地域住民、利用者から親しまれる駅をつくりたい

九州の特産品を販売。「ばんぺいゆ」50個が約1時間で完売する等大盛況。



NPO法人カシオペア連邦地域づくりサポーターズについて

カシオペア連邦4市町村(二戸市、一戸町、軽米町、九戸村)内の地域づくりを支援する中間支援のNPO法人として平成13年に設立され、地域づくり活動助成、地域づくり情報発信、地域づくり団体交流促進の3つの事業を柱として様々な取組を行っている。

資料)IGRいわて銀河鉄道HP

(3) 新たな「地域の足」の開発と普及

✚ 答申の要点

- 鉄道やバスの維持の見通しが立たない地域においては、これまでのバスやタクシーといった形態にとらわれない新たな「地域の足」を模索し、普及させていくことが必要。

✚ 平成18年度の取り組み

- **「生活交通ハンドブック」の刊行(青森県)**
市町村が主体となって、地域の実情に即した多様で持続可能な交通システムを構築できるよう支援するため、平成19年2月に「**生活交通ハンドブック**」を刊行した。平成16年度から実施している《生活交通ユニバーサルサービス構築モデル事業》の一環。
- **デマンド交通促進事業(山形県)**
デマンド乗合タクシーを導入している高畠町、飯豊町、川西町に対して、**運行欠損の一部を補助**。
- **福島県市町村生活交通対策事業(福島県)**
既存の直営または委託による市町村が実施する乗合バス事業等のほか、新たに商工会等が運行するデマンド型乗合タクシー事業に対して市町村が補助する場合に、その**経費の一部を助成**する。
- **生活交通運行維持対策(仙台市)**
平成18年5月1日より地元組織による**乗合タクシーの試験運行**を開始。バス運行時と比べ利用は増加したが、事業計画で見込んだ利用者数には達していない。利用料金はバスよりも割高。

事例紹介

✚ 平成18年度の取り組み(続)

- **福祉有償運送運営団体1団体に助成(秋田県)**

地域ニーズに合った効果的で利便性の高い移動サービスを提供し、自家用車等を利用できない高齢者等の積極的な社会参加を推進している《**わくわく移動サービス支援事業**》。平成18年度は湯沢市内の1団体に助成した。

- **角田市における乗合タクシーの試験運行開始(宮城県)**

平成19年2月1日から、角田市が市商工会に委託して運行する**乗合タクシーの試験運行**が開始した。今後2ヶ月間で運営形態を検討し、4月から市内全域にエリアを拡大して本格運行する計画。

「生活交通ハンドブック」の刊行 (青森県)

■事業の背景

乗合バス利用者の減少
(ピーク時の4分の1)

県内のバス路線の約7割が
補助金(税金)で維持されて
おり、燃料費の高騰や利用
者の減少によって、税金による負担が今後ますますふくらんでいくことへの懸念

日常生活に欠くことのできない地域の生活交通確保の必要性

少ない経費でより効率的な移動サービスを提供することの必要性

生活交通ユニバーサルサービス構築モデル事業

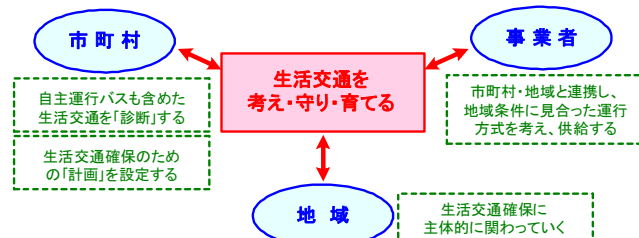
市町村が主体となって地域の実情に即した、多様で持続可能な交通システムを構築できるよう支援(平成16~17年度)。

平成18年度には、「生活交通ユニバーサルサービス構築モデル推進委員会」(学識経験者、地方公共団体、国で構成)を設置し、これまでのとりくみをまとめた「生活交通ハンドブック」を刊行。

地域に適した新たな生活交通構築へのみちしるべが示された

■「生活交通ハンドブック」の概要

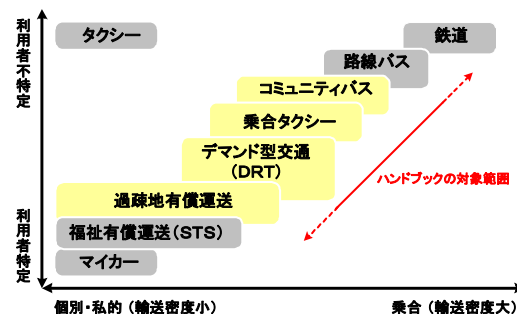
《生活交通を守り育てる協働の考え方》



《ハンドブックの内容》

- I) 生活交通の基礎知識...青森県の交通の実態、様々な地域生活交通の特性を解説
 - II) 生活交通事例...全国各地で導入されている生活交通の事例を紹介(導入経緯、運行概要 等)
 - III) 生活交通のつくり方...地域に適した生活交通を導入するための視点を解説
(事前調査の項目、導入に向けた手続き、導入後の維持・発展のための仕組みづくり 等)
- 付録) 生活交通に関するQ&A、交通実態調査(アンケート票)の事例

《ハンドブックで対象とされている交通手段》



④

環境に優しい交通体系の整備

(答申「第5章」)

東北地方の交通の課題

持続的な発展の大きな課題となっている**地球温暖化問題**に対して、東北地方の交通分野においても、**環境対策**を進める必要がある。



(1) 車両の低公害化の推進

✚ 答申の要点

- 交通モードを問わず、車両を低公害化すると同時に、低公害車両の燃料供給箇所を整備していくことが必要。

✚ 平成18年度の取り組み

- 東北全体のCNG車導入台数は**増加傾向**

	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	東北計
平成15年度末	0	0	133	3	1	5	142
平成16年度末	0	1	187	3	3	11	205
平成17年度末	0	0	223	4	3	16	246

- 環境イベントにおける低公害車の展示・試乗会の実施(青森県)
「あおもり環境フェスティバル」において、低公害車を展示するとともに、希望者には試乗体験も行った。

(2) 効率的で環境に優しい物流体系の整備 ～物流のグリーン化～

✚ 答申の要点

- 効率化することによって環境対策に大きく貢献することが期待される物流において、高度かつ効率的な物流体系の整備やモーダルシフトの推進、静脈物流システムの構築等、グリーン化施策の一層の推進を図ることが必要。

✚ 平成18年度の取り組み

- **グリーン物流パートナーシップ推進事業として2件を認定**
「都市間港湾活用物流の普及拡大事業」と「仙台市内の本社倉庫と港支店倉庫を拠点としている加工食品の宮城県内配送便の共同化」の2件が選定された。

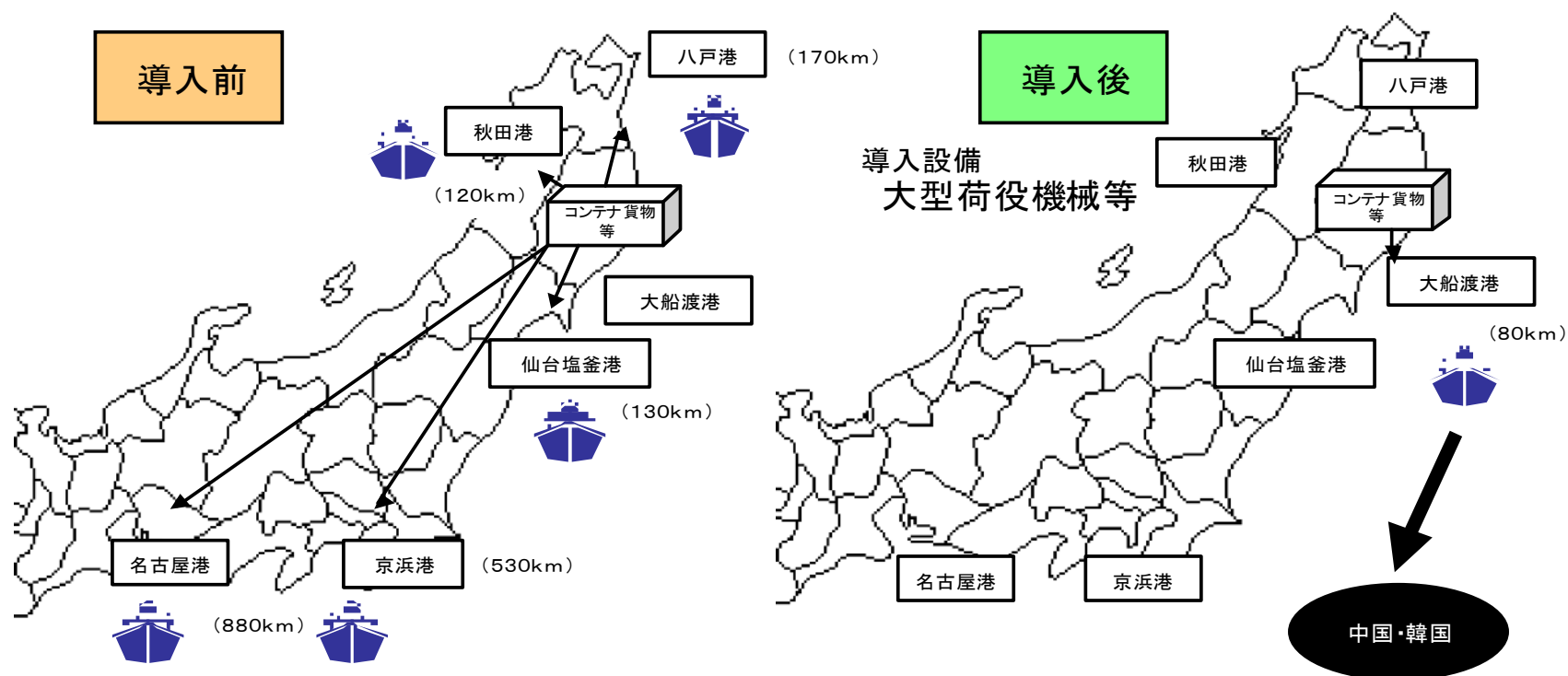
事例紹介

グリーン物流パートナーシップ推進事業

採択事例1：都市間港湾活用物流の普及拡大事業

■事業の概要

1. 事業者名 大船渡港国際港湾ターミナル協同組合、日本通運(株)、東北汽船港運(株)
2. 事業概要 内陸及び港湾都市事業者16社がパートナーを組んで、岩手県における港湾貨物の5割を取り扱う大船渡港に港湾荷役用クレーンを設置し、コンテナ貨物取扱機能整備による拠点化を図ることで、地域の物流システムの効率化を促進し、環境負荷の低減を図る。

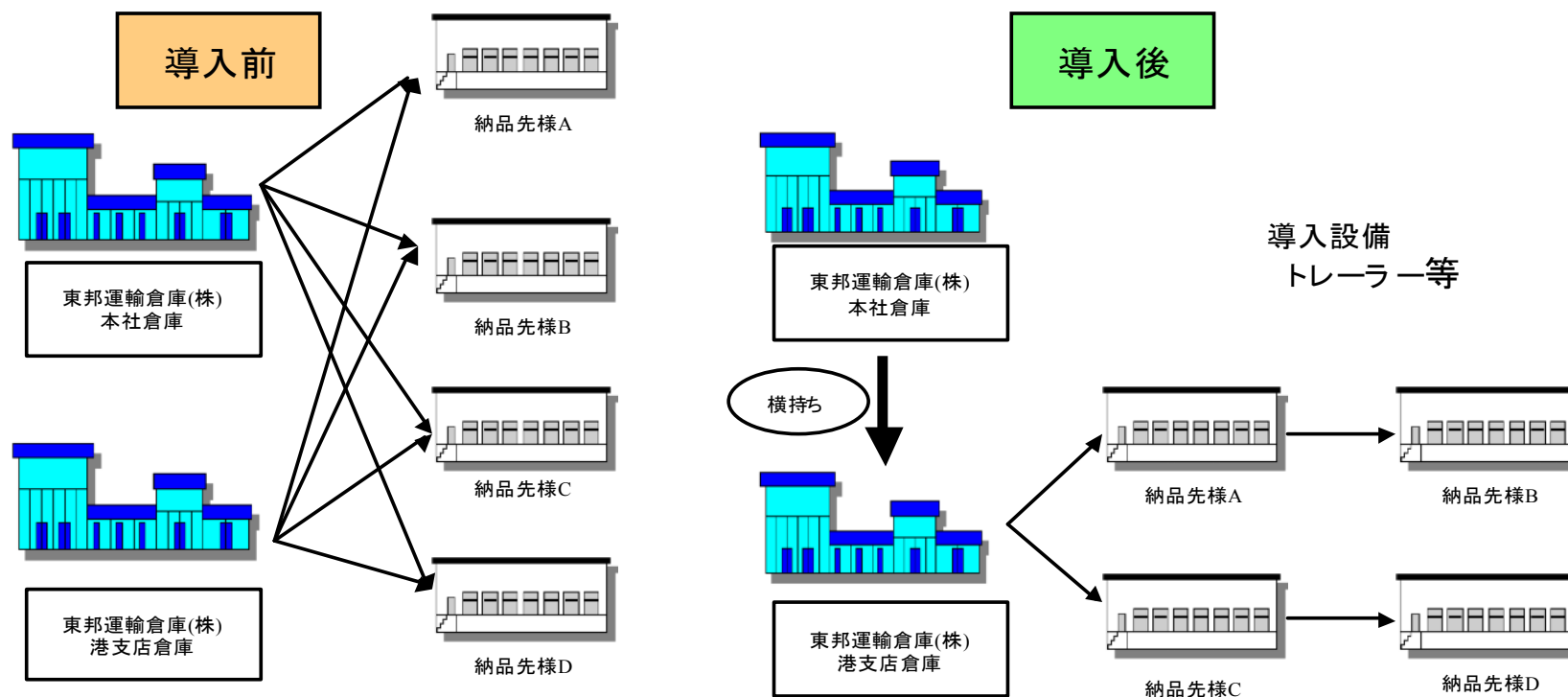


グリーン物流パートナーシップ推進事業

採択事例2：仙台市内の本社倉庫と港支店倉庫を拠点としている
加工食品の宮城県内配送便の共同化

■事業の概要

1. 事業者名 東邦運輸倉庫(株)、(株)光陽運輸
2. 事業概要 港支店倉庫で保管している加工食品メーカー3社の製品と本社倉庫で保管している加工食品メーカー1社の製品を各々配送していたものを、共同配送し輸送効率化を図り、CO₂排出削減を図る。



(3) 旅客部門の環境対策 ～マイカー利用の抑制～

✚ 答申の要点

- 公共交通への転換を図るとともに、地域住民との合意形成を図りながら、生活空間や観光地においてマイカーの利用を抑制していくことが必要。

✚ 平成18年度の取り組み

- 観光地におけるマイカー規制範囲の拡大(福島県)**
尾瀬の自然保護の観点から実施していたマイカー規制について、平成19年度からは、**路線バス、シャトルバス、許可車を除く全車を規制対象**とすることとなった《「福島県尾瀬自動車利用適正化連絡協議会」》。
- 転入者を対象にしたモビリティ・マネジメント(宮城県渋滞対策連絡協議会)**
仙台市への転入者に対して区役所の転入受付窓口でコミュニケーション用資料を配付し、自発的に自動車利用から公共交通利用への転換を促す取り組みを行っている。
宮城県渋滞対策連絡協議会(事務局:国土交通省仙台河川国道事務所)での取り組み。

《コミュニケーション用資料》

- ・ようこそ仙台へ！かしこいクルマの使い方を考えるプロジェクト仙台
- ・バス利用の手引き
- ・仙台市営バス・地下鉄路線図
- ・宮城交通仙台圏バス路線図
- ・100円パッ区利用ガイド



★モビリティ・マネジメント(MM)とは？
ひとり一人のモビリティ(移動)が、社会的にも個人的にも望ましい方向に自発的に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通施策。

事例紹介



観光地におけるマイカー規制範囲の拡大 (福島県)

■規制対象車両の拡大

《平成18年度まで》

車両の種類	規制内容
マイカー等 (マイカー、ハイヤー、 二輪車を含む)	許可車を除き、通年で御池(みいけ)～沼山峠口間の通行不可。
観光バス等 (乗客11名以上及び 車体の長さが5.2m 以上のもの)	規制日のみ、七入(なないり)～沼山峠口間の通行不可。 規制日以外は沼山峠口まで通行可。 ※平成18年度の規制日は42日

《平成19年度から》

車両の種類	規制内容
マイカー等 (マイカー、ハイヤー、 二輪車を含む)	許可車を除き、通年で御池～沼山峠口間の通行不可。
観光バス等 (乗客11名以上及び車 体の長さが5.2m以上 のもの)	許可車を除き、通年で御池～沼山峠口間の通行不可。

規制対象車両の拡大

■尾瀬地域(沼山峠口)の交通対策について



規制されている車両の乗客は、七入及び御池の駐車場に車を止め、沼山峠まで運行されているシャトルバスに乗車する。

駐車場料金	
御池	マイカー1,000円/回 バス2,000円/回
七入	無料

シャトルバス運賃	
七入～	400円
御池～	600円
※大人・片道	

資料) 南会津地方振興局HP

(4) 環境負荷の小さい交通体系の構築

✚ 答申の要点

- 公共交通への転換を図るとともに、地域住民との合意形成を図りながら、生活空間や観光地においてマイカーの利用を抑制していくことが必要。

✚ 平成18年度の取り組み

- ESTモデル事業(仙台市、八戸市)**
CO₂排出量の削減目標達成に向け、各事業を促進している。
- 東北全体のグリーン経営認証事業所が平成18年度で45箇所増**

(トラック事業者)	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県
平成17年度登録	6	7	23	6	3	24
平成18年度登録	8	22	37	13	8	26

出典) 交通エコロジー・モビリティ財団HP

事例紹介

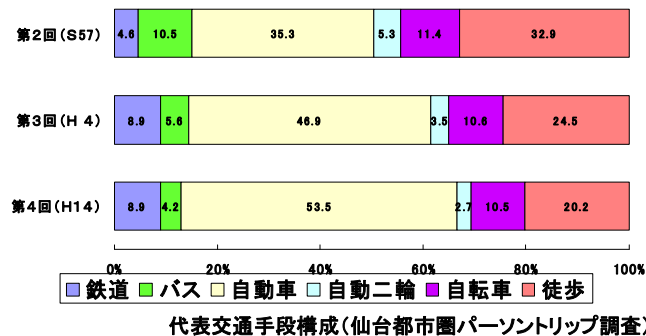
仙台市における環境的に持続可能な交通(EST)モデル事業

ESTモデル事業実施施策
平成17年度～平成19年度

事業の概要

仙台市は公共交通を重視した総合交通体系の構築を目指すアクセス30分構想を策定し、公共交通による移動時間短縮や公共交通サービス向上、TDMを推進することにより、軌道系交通機関を基軸とした集約型市街地「コンパクトシティ」の形成や杜の都にふさわしい緑美しい都市「百年の杜づくり」の実現を目指している。

《増大する自動車利用》



目標

平成19年度までに

対象エリアのCO₂排出量を

8,524 ton削減

- ・渋滞解消による旅行速度の向上
- ・渋滞解消及び低公害車両導入等によるCO₂排出量の削減



- 渋滞の緩和
 - ・幹線道路の整備
北四番丁岩切線(幸町) ほか
 - ・交差点の改良
国道48号木町通交差点
 - ・路上工事の縮減
- 景観・緑化事業等
 - ・電線共同溝に併せた歩道整備
国道45号(原町地区等)
 - ・緑化によるCO₂削減
国道4号(東二番丁) ほか
 - ・共同溝事業
国道45号仙台東部共同溝

- 新駅設置
JR東北線(仮称)南長町駅
- 既存軌道系関連道路等整備
 - ・アクセス道路の整備
長町折立線(土手内) ほか
 - ・駅前広場の整備
JR東北線南仙台駅(東口) ほか

- 啓発事業
 - ・ポスターの作成・掲示
 - ・ステッカーの作成・配布
 - ・ホームページでのEST事業紹介
 - ・各種イベントにおける啓発活動

- オムニバスタウン計画その他のソフト施策
 - ・仙台市オムニバスタウン計画
バスロケーションシステム、都心部バス100円均一運賃制度 ほか
 - ・その他のソフト施策
低床CNGバス、低床アイドリングストップバスの導入 ほか
 - ・ITSによる円滑な移動の支援
 - ・市民や地元企業と連携した通勤交通需要マネジメント
P&R、時差通勤通学等
 - ・自転車ルール・マナー啓発による利用環境向上

八戸市における環境的に持続可能な交通(EST)モデル事業

＝テーマ＝ 「環境先進都市～八戸」の理念に相応しい環境的に持続可能な交通(EST)への転換

事業の概要

八戸市は、「環境への負荷の少ない持続的に発展することが出来る環境先進都市」の実現を掲げる「八戸市環境基本条例」(H16.12.27公布)の趣旨を踏まえ、運輸部門における環境負荷低減対策として、バス路線網の再編・再構築等により公共交通の持続性・利便性を高めるとともに、道路環境の整備等により渋滞緩和を図り、環境的に持続可能な交通(EST)への転換を目指す。

	H6	H11	H16
市営バス乗合輸送人員	1654万人	1110万人	860万人
市内自動車登録台数	14.7万台	16.8万台	17.8万台

この10年間で、乗合バスの乗車人員は約5割減！
自動車等の保有台数は約2割増！

公共交通の再編・再構築と
道路環境の整備等により...

目標

平成20年度までに対象エリアの
CO2排出量を
8,658t-CO₂(約3.2%)削減
(対 未対策時)



公共交通体系の再編・再構築

- ・南浜地区・美保野地区生活交通再編モデル実証実験
- ・南郷コミュニティ交通事業の推進
- ・公共交通再生プラン策定事業
- ・路線移管・再編による運行効率化

環境的に持続可能な交通モデルの検討・周知啓発

- ・トランジットモール導入の検討継続
- ・広報、CATV、各種イベント等の活用による周知啓発



主な施策

バスを活用した関連施策

- ・低公害車の導入
- ・環境定期券、子ども探検隊エコパスポートの発行
- ・新バスロケーションシステムの導入
- ・ITSサービスの利用促進

環境とひとにやさしい「みちづくり」

- ・国道45号八戸南道路一部区間暫定供用開始
- ・国道45号八戸バイパス(新井田～妙)の4車線化
- ・県道八戸野辺地線道路改良事業
- ・歩道整備(くらしのみちゾーン形成事業 など)

第二編

觀光振興戰略



構 成

❖ 取り組むべき施策

- ① 地域の観光魅力の向上
- ② 誘客活動・情報発信
- ③ 観光振興に向けた交通の改善

①

地域の観光魅力の向上



(1) 地域の長所・特性の活用

◆ 答申の要点

- ・ 祭り・伝統芸能、温泉、自然・四季の彩り、歴史・文化、食、雪、スポーツ、田園・中山間地域等の景観・生活様式、都市、地域の産業等、「地域ならではの」「東北ならではの」の観光魅力を発掘・育成し、活用する。

◆ 平成18年度の取り組み

・ 観光ルネサンス事業「酒田市」

民間組織が中心となり、柔軟な発想で創意工夫をこらし、地域の特色を活かした個性あふれる観光地づくりのための補助制度である「観光ルネサンス事業」に、酒田市が選定された。

「観光ルネサンス補助制度」とは・・・

2010年までに訪日外国人旅行者数を1,000万人に倍増させる、との政府目標を達成するためには、VJC等による海外への情報発信などと並行して、訪日外国人をもてなす国内の観光地の魅力向上が急務。外客誘致法の改正により、観光地の活性化に取り組む「民間」の活動を支援する制度を新たに創設するなど、観光地の国際競争力の向上を促進する制度。

・ 作並地区観光振興推進事業(仙台市)

作並地区の温泉や自然など恵まれた地域資源を活かし、地域住民や観光客の交流拠点となる施設を整備する。《みやぎ観光戦略プラン》策定期間内に盛り込まれている主な市町村事業の一つ。

事例紹介

◆ 平成18年度の取り組み(続)

- **地域伝統芸能を舞台芸術化したイベント「杜の賑わい・いわて花巻」
((株)JTB東北)**
「地域に埋もれた、あるいは忘れ去られようとしている郷土の祭りや芸能を見つけ出し、掘り起こし、時と場所を選ばず一同に集めて展開し、旅の中でお楽しみいただく」をコンセプトに、昭和56年から行われているJTB主催のイベント。平成18年10月21日に岩手で開催され、伝統芸能等の2回の公演で約1,800名の参加者があった。
- **広域連携観光推進事業(岩手県)**
岩手ならではの魅力ある地域資源を有効活用し、旅行商品化の促進を図っている。
- **「東北の桜(花)だより」パンフレット作成(東北六県観光協議会)**
東北の観光資源(個別テーマ)のPRによる首都圏からの誘客促進を図るため、JR東日本とのタイアップにより実施した。平成19年度も実施予定。

観光ルネサンス事業—酒田市

■事業の概要

21世紀の北前船『酒田観光ルネサンス』

近年観光客が大幅に増加している酒田市において、(社)酒田観光物産協会が主体となり、以下の事業を実施する。

《平成18年度》

- ①イベントにおける多言語対応
(案内板、パンフレット等)
- ②外国語併記案内標識の整備
- ③情報発信事業
(3カ国語併記HP・ナビゲーション
マップボード作成、海外PR等)
- ④外国語通訳ガイド研修会・接遇研修
会等の開催
- ⑤外国語対応案内板やイヤホンガイ
ドの調査

- ⑥案内標識整備のための調査
- ⑦地域ブランド商品の開発

《平成19年度》

平成18年度事業を継続するとともに、
イヤホンガイドの設置、案内標識の整
備を予定

外国人観光客が訪れやすい環境



▲山居倉庫
(酒田夢の倶楽併設)



▲さかた海鮮市場



酒田の観光ポイント
●市内の建築物
●鳥海山
●飛島



観光拠点として平成15年の「さかた海鮮市場」、翌年に「酒田夢の倶楽」が整備されたことにより、大幅に増加。

(2) 観光需要の構造変化を踏まえた対応

❖ 答申の要点

- 外国人や中高年者、小グループ等、今後増大が見込まれる新たなターゲットが観光しやすい環境づくりを行う。

❖ 平成18年度の取り組み

- **外国人観光客受入整備事業(仙台市)**
民間事業者による外国人受け入れ体制の整備を支援することで、より受入環境の充実を図り、外国人も気軽に滞在や観光を楽しめる環境をつくることを目的とし、地域受け入れ体制の整備を促進する。
- **外国人観光客受入施設を対象とした研修会の実施((株)JTB東北)**
- **三者通訳システムの導入促進(同上)**
関係諸機関との連携により、外国人観光客受入の課題解消に向けた受け入れ体制整備を推進する。
- **未知の奥・平泉観光振興事業(岩手県)**
世界遺産登録に向け、平泉の文化遺産の新たな魅力づくりと観光への波及効果を高めるための取組みを行うとともに、外国観光客受入体制の整備等に取り組む。
- **ツアー催行率の向上((株)JTB東北)**
添乗員付き募集旅行の最小催行人員を2名以上とし、催行率を向上させた。

(3) 異業種間連携や、NPO・地域住民とも 一体となった地域の魅力の向上

◆ 答申の要点

- 観光施設、宿泊施設、飲食店、商店、NPOや地域住民等が連携し、地域を上げた総力戦として観光魅力のある地域づくりを進める。

◆ 平成18年度の取り組み

- **ボランティアガイドとの連携(JR東日本仙台支社)**
JR米坂線羽前小松駅を出発し、山里の古民家や蔵等の歴史的建築物、郷土料理のおもてなし等をボランティアガイドの案内で楽しむツアーを、平成19年3月31日と4月1日に開催する。
- **魚彩王国(JR東日本盛岡支社)**
岩手県陸中海岸魚彩王国実行委員会との連携により、観光客の誘客を図った。

(4) 東北地方全体としてのレベルアップ

◆ 答申の要点

- 訪れた観光客に満足感を与え、観光客のリピーター化や「ロコミ」による来訪者拡大を図る。

◆ 平成18年度の取り組み

- 秋田の旅イメージアップ宣伝広告事業(秋田県)**
「秋田の顔」となる地域を選定し、その地域の特色ある旅行商品企画等を重点的かつ集中的に宣伝する。
平成18年度の「秋田の顔」は、①マタギの森「阿仁森吉地域」と②小野小町ゆかり凧の郷「秋の宮温泉郷」の2地域が選定された。
- 未知の奥・平泉観光振興事業(岩手県)【再掲】**
世界遺産登録に向け、平泉の文化遺産の新たな魅力づくりと観光への波及効果を高めるための取組みを行うとともに、外国観光客受入体制の整備等に取り組む。

②

誘客活動・情報発信



(1) 東北地方の官民が広域連携し一体となった 外国人観光客の誘致活動の強化

◆ 答申の要点

- 訪れた観光客に満足感を与え、観光客のリピーター化や「口コミ」による来訪者拡大を図る。

◆ 平成18年度の取り組み

- YOKOSO! JAPAN 東北 春**(「YOKOSO! JAPAN東北」実行委員会)
東北六県の官民が一体となって、海外重点市場から旅行エージェント、マスコミ等を招聘し、東北の魅力を重点的に情報発信して旅行商品造成を図った。
- 日・台マーケティングセミナー<台北>**((社)日本観光協会東北支部)
東北各地の駅・空港から観光地へのアクセスを含むFIT旅行行程の提案や東北の観光情報の発信による商品造成の促進と現地ニーズの情報交換を行う。東北六県観光関係機関の他民間参加者による現状報告が好評で、PR効果が期待される。
- 東北地域への旅行のモデルコース作成と海外(アジア)の旅行会社に対する直接営業**((株)JTB東北)
国際事業部を中心に、東北の観光情報を海外の旅行会社に積極的に提供していく。
- 東北フェアin上海・観光フェア事業**(東北広域観光推進協議会)
中国(上海市)において、上海市・広州市の現地旅行会社との商談会を実施した。併せて東北観光セミナーを開催し、東北の観光資源の魅力を紹介した。

事例紹介

◆ 平成18年度の取り組み(続)

- **外国語ホームページの充実(仙台市)**
外国人にわかりやすく、各種情報を簡単に入手できるような利便性の高い内容に改良。
- **東北プロモーションin台北<台北>((社)日本観光協会東北支部)**
台北の人気ショッピングセンターにおいて、東北六県が一体となったプロモーション活動。一般の消費者に東北の観光情報を発信し、東北の認知度を高め観光客の誘致に努める。東北独自の文化・祭り・自然・食等についてPRを行った。
- **台湾国際旅行博覧会出典<台北>((社)日本観光協会東北支部)**
台北最大の国際旅行見本市で、東北六県に栃木県を加えた広域で“日本東北”の観光情報をプロモーションし、東北の認知度を高め観光客の誘致に努める。東北独自の文化・祭り・自然・食等についてPRを行った。
- **山形舞子と料亭での夕食を組み込んだ旅行商品の企画・販売((株)JTB東北)**
山形市内の旧家鈴木家に代々伝わる貴重なお雛様を飾った座敷で、ひな人形の説明を聞き山形舞子の舞を鑑賞しながら料亭でお雛膳をいただく会。平成19年3月1日～4日の4日間開催された。
- **ムービング東北の3カ国語版パンフレット作成(東北広域観光推進協議会)**

YOKOSO! JAPAN 東北 春

東北6県の官民が一体となって、海外の重点市場（韓・台・中・香・タイ・シンガポール）から旅行エージェント37名、マスコミ19名のキーパーソン合計56名を招聘。
「東北視察ツアー」「国際シンポジウム」「誘客プロモーション」等を実施し、東北の「春」等の魅力を、重点市場に対し強力に情報発信し旅行商品造成を図る。

【事業概要】

日程 平成18年4月23日(日)～29日(土)
国際シンポジウム：4月27日(木) 誘客プロモーション：4月28日(金) 秋田県・秋田市
参加者数 海外からの招聘予定者：56名 国際シンポ（一般参加者含む）418名
主催 「YOKOSO! JAPAN 東北」実行委員会

東北視察ツアー

3コースにより、東北各地を周遊し、東北の桜を中心とした「春」及び観光資源（風景、温泉、食など）を視察・体感

国際シンポジウム及び誘客プロモーション

【国際シンポジウム】

（基調講演）～柴田 耕介 国土交通省総合観光政策審議官
演題「我が国の観光立国政策について」

（パネルディスカッション）テーマ「東北の観光振興に向けて～その課題と戦略～」
国内外の有識者等から今後の東北観光振興に向けた課題等を提言

（地域伝統芸能実演）～過去のV J Cで実演し、好評を博した東北の伝統芸能を披露

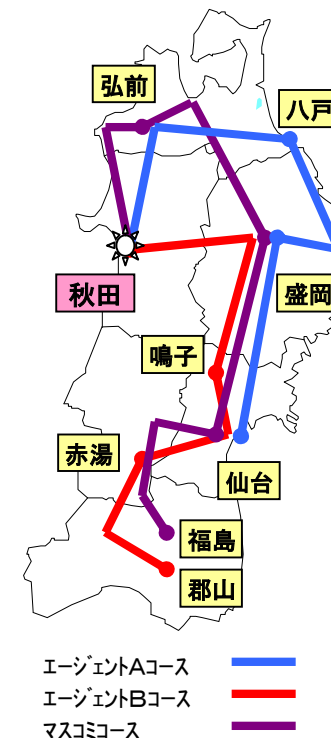
【誘客プロモーション】

（インバウンドセミナー）～海外からの招聘者によるインバウンド振興へのアドバイス

（交流商談会）～東北の行政・観光関係者等と海外旅行エージェントによる具体的な商談



視察コース図



○ 海外重点市場における東北の知名度向上と「春」を活かしたインバウンド商品の造成

○ 2010年に向け今後東北地域が進める観光振興に向けた戦略等を検討

東北を訪れる外国人観光客の飛躍的拡大を図る

(2) 国内観光の誘客活動の充実

❖ 答申の要点

- 東北に対する観光イメージが希薄で、広域的な周遊観光ニーズが強いと考えられる地域を中心に、東北の観光イメージを強力に浸透させる取り組みを進める。

❖ 平成18年度の取り組み

• 二市二町の連携による広域的な魅力向上(仙台市)

国内外からの集客を高め、広域的な観光ゾーンとしての総合的な魅力の向上を図るため、二市二町(気仙沼市・松島町・平泉町)、三市(福島市・山形市)の連携をはじめ、各都市との連携を進める。

【国内向け誘客活動における連携強化】

旅フェア<東京>((社)日本観光協会東北支部)

国内の旅の見本市で、東北六県一体となったテーマ性のある観光地のPRをし、誘客活動を行う。

• 広域連携観光推進事業(岩手県)

中高年層を主なターゲットに、岩手ならではの魅力ある地域資源を有効活用し、旅行商品化の促進を図っている。

• 「東北の桜(花)だより」パンフレット作成(東北六県観光協議会)

東北の観光資源(個別テーマ)のPRによる首都圏からの誘客促進を図るため、JR東日本とのタイアップにより実施した。平成19年度も実施予定。

【マスコミ、メディア効果の活用】

テレビアニメ「サザエさん」オープニング企画タイアップ(仙台市)

「サザエさん」のオープニング画像に仙台市の風景を写して放送した。

事例紹介

❖ 平成18年度の取り組み(続)

- **フィルムコミッション事業「アヒルと鴨のコインロッカー」(仙台市)**
仙台を舞台にした小説「アヒルと鴨のコインロッカー」のロケが仙台で行われた。
 - **名物ガイド等の新企画の提供(山形鉄道(株))**
効果の大きいメディアに対して話題を提供し、取りあげてもらうことで集客を図る。
 - **教育旅行誘致事業(東北広域観光推進協議会)**
観光経済新聞、日本教育新聞、日本修学旅行協会「教育旅行白書」で東北での体験学習をPRした結果、問い合わせが増加した。
- 【「ロコミ」情報、リピーター需要の重視】
- 北東北また来てケロキャンペーン(JR東日本盛岡支社)**
北東北冬の祭り会場にて、抽選プレゼント付きアンケート調査による情報把握を行った。安価な商品販売と、民謡などの歌・踊りの披露等、温かいもてなしが好評だった。
- **津軽応援直売会乗車(津軽鉄道(株))**
沿線農家の主婦が手作り商品を持って乗車し、乗客に特産物の紹介や販売を行った。商品販売以外にも、沿線観光案内を実施した。
- 【インターネットを活用した個人旅行の促進】
- **インターネットによる個人旅行の販売促進(JR東日本仙台支社)**
商品パンフレットと申込みフォームの追加掲載、コンビニエンスストアでの支払いによる利便性向上を実施し、商品サイト「えきねっと」上で告知を進めた。
 - **インターネットによる個人旅行予約(JR東日本盛岡支社)**
盛岡支社のホームページからオンラインで商品の予約が可能。観光施設等のサイトからも、盛岡支社のホームページにリンクしている。
 - **携帯電話による予約の利便性向上
(株)JTB東北)**
携帯電話から宿泊施設の動画情報を得られる宿泊プランパンフレットを作成している。

❖ 平成18年度の取り組み(続)

【旅行商品の造成】

幅広い顧客層に向けた個人型商品の造成(JR東日本仙台支社)

管内エリアに向け、鉄道を使った商品を中心に設定し、さらに中高年層にターゲットを絞った商品提案を進めている。

- ・ **列車に乗ることを目的とした旅行企画(山形鉄道(株))**
車窓からの風景やガイドの説明を楽しむ等を目的化し、集客に努める。
- ・ **女性をターゲットとした新宿泊プランの企画・販売((株)JTB東北)**
温泉をテーマとして「温泉ビューティー」と銘打ち、女性をターゲットに温泉宿泊施設の紹介等を行っている。マーケティング分析と地域素材を組み合わせ、積極的に商品開発を行っている。

【修学旅行等の誘致促進】

- ・ **首都圏から東北への修学旅行の誘致のための意見交換会(JR東日本仙台支社)**
東北広域教育旅行誘致委員会と連携し、学校関係者を対象に東北の主要な受入地域・施設の紹介と実際に東北への修学旅行を実施している事例発表、意見交換会を実施した(平成18年7月)。
- ・ **東北教育旅行フェア((株)JTB東北)**
東京で開催された際に、参画協力を行った。
- ・ **教育旅行誘致事業(東北広域観光推進協議会)**
体験型観光商品の開発・宣伝のため、東北六県、民間会社等と委員会を設置し、首都圏中学校の学校関係者を集めて東北の魅力を紹介した。
- ・ **高等学校との連携((株)JTB東北)**
宮城大学と連携し、地域密着体験型旅行商品の企画・販売・実施を行っている。
- ・ **関西圏/九州圏誘客キャンペーン(東北広域観光推進協議会)**
大阪の航空会社2社と主な旅行会社を招聘し、現地視察旅行を実施。また、福岡にて現地の主な旅行会社との観光セミナー、商談会を実施。

二市二町連携・三市連携事業 (仙台市)

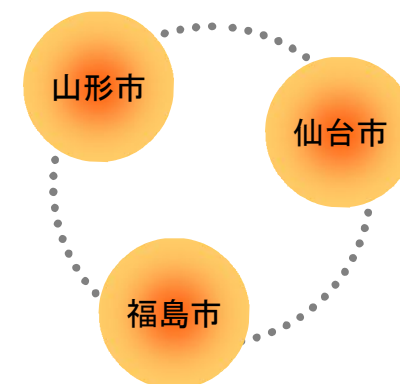
■事業の概要

広域観光連携事業

仙台市及び周辺自治体等とが広域的な連携を行うことにより、プロモーション効果を上げ、当地域の知名度向上と交流人口拡大を図る。具体的には、以下の取り組みを行う。

- 首都圏等メディア・旅行エージェント訪問
- テレビアニメ番組オープニング企画タイアップ
- 二市二町連携会議(仙台市、気仙沼市、松島町、平泉町)
- 三市連携会議(仙台市、山形市、福島市)

資料)仙台市産業活性化行動計画HP



仙台・東北ジャパンフェア (平成18年10月開催<バンコク>)

主催: 仙台市、福島市、山形市
タイ観光物産展仙台・福島・山形実行委員会
協賛: タイ国際航空、日本航空インターナショナルバンコク支店
ANAバンコク支店
後援: タイ王国政府官公庁(TAT)、在タイ日本国大使館
国際観光振興機構(JNTO)
日本貿易振興機構(JETRO)、バンコクセンター
タイ国日本人会、盤谷日本人商工会議所
国土交通省東北運輸局

【 SENDAI TOHOKU JAPAN FAIR 】

仙台、山形、福島各地域の特産品の展示販売や、「仙台すずめ踊り」の演舞披露、書道のデモンストレーション指導のイベント開催。

【 SENDAI TOHOKU JAPAN Travel Seminar 】

仙台、山形、福島のそれぞれの観光地としての特色や魅力を紹介するほか、魅力的な観光コースや周遊日程についても併せて紹介。参加者は、TTAA(タイ旅行業者組合)関係の旅行エージェント等、現地の旅行業関係者約150名。

【 Reception 】

タイと仙台・東北との観光交流等に関わりのある関係者などを招待し開催。タイ側関係者約250名に招待状を送付。

広域連携を活かし、仙台・東北の知名度向上によるタイからの旅行者増

③

観光振興に向けた交通の改善



観光振興に向けた交通の改善

◆ 答申の要点

- 二次交通の整備や外国人に対応した案内の充実、イベント開催時等の対応の強化等、東北地方内の移動を円滑にする取組を行う。

◆ 平成18年度の取り組み

【二次交通の充実】

- **レンタカーの活用(JR東日本仙台支社)**
駅を起点とした二次交通充実のため、観光地や温泉地の駅に「駅レンタカー」営業所を新設。平成18年度は「赤湯(あかゆ)駅」と「村山(むらやま)駅」に新設した。
- **鉄道に合わせたタクシープラン(JR東日本盛岡支社)**
「さんりくトレイン北山崎号」の運転に合わせて、タクシーによる観光コースがセットとなった会員タクシーを運行した。
- **広域連携観光推進事業(岩手県)**
広域観光団体が行う二次交通充実のための取組みに対して、費用の一部を助成している。
- **鉄道駅を起点とした周遊バスの運行(会津鉄道(株))**
会津鉄道の駅から主要な観光地を回る「しもごうベルトライン号」が、平成18年7月～11月の土休日に運行された。

◆ 平成18年度の取り組み(続)

【外国人観光客への対応】

- **外国人観光客受入体制整備モデル事業(秋田県)**
宿泊施設等における外国語案内表示の整備促進を行い、外国人観光客の利便性向上を図る。
- **外国人旅行者への外国語ガイドブックによる観光情報提供
(JR東日本仙台支社)**
独自の取組みとして、海外からの旅行者向けに、駅案内表示の外国語表記や4カ国語パンフレット作成を継続して実施している。今後は各自治体や観光推進組織が個々に作成しているガイドブック等の集約も含めた編集を検討していく仕組みづくりが必要。
- **未知の奥・平泉観光振興事業(岩手県)**
平成20年の世界遺産登録を期に、外国人観光客がいっそう増加すると見込まれる平泉地域を中心に、外国人観光客が訪れやすい環境づくりを推進。

【交通機関の観光魅力の増大】

- **ジョイフルトレイン・SLの運行による沿線観光の活性化(JR東日本仙台支社)**
仙台～気仙沼～平泉間の観光周遊ルートにおけるジョイフルトレイン「こがね号」の運行や、観光キャンペーン・イベントと連動した「SL列車」、「風っこ号」等の運行及び列車の旅を目的にしたイベント列車(お座敷列車等)の運行を行った。

【イベント開催時等の対応の強化】

- **臨時列車の運転等(JR東日本盛岡支社)**
源義経公東下りや小岩井ゆきまつり等のイベントに合わせ、臨時列車の運転と駅係員の増配置を行った。
- **仙台空港アクセス鉄道の開業に合わせた仙台駅乗換の円滑化(仙台市ほか)**
「仙台空港アクセス鉄道開業に伴う広域交流促進プロジェクト」検討委員会において、仙台駅で円滑に乗換をおこなうための施策を検討した。